

岡山県倉敷市の水路にボタンウキクサの群生を確認^{*}

秋山 繁治

1994年10月に、ボタンウキクサ *Pistia stratiotes* Linnaeus var. *cuneata* Engler の群生を確認した。岡山県下からの記録はないので、写真を添えて報告する(写真)。

Class Monocotyledoneae 単子葉植物綱
Order Arales サトイモ目
Family Araceae サトイモ科



写真. ボタンウキクサ(倉敷市庄, 1994. 10. 15.)

群生が見られたのは岡山県倉敷市の上庄から下庄にかけての六間川に連なる水路で、清心女子高等学校生物同好会の活動として、自然観察の目的で学校周辺を散策中の9月30日に生徒が見つけ、採取し、これを確認した。

根は多くは15cmぐらいのひげ根で、長いものでは24cmあった。葉は叢生で、外側のものほど大きく、ロゼット状に開いている。葉の形は半開扇状で、もっとも外側のもので葉柄の幅1cm、葉身の長さ16cm、葉身の幅は12cmあった。

金魚鉢や水槽で観賞用として栽培される熱帯アフリカ原産の浮漂性の多年草で、昭和の初期に移入された。和名の語源は外形がボタンに似ていて、浮水性であることに由来するという。生育には水温15℃以上が必要といわれ、沖縄本島以北の日本では越冬できず1年で枯れるようだ^{1) - 3)}。侵入

経路は不明だが、本年夏の猛暑に助けられたか、かなり広い範囲で繁殖が見られ、大きい群落では幅2mの水路に50mに及んで群生する場所も見られた(図)。

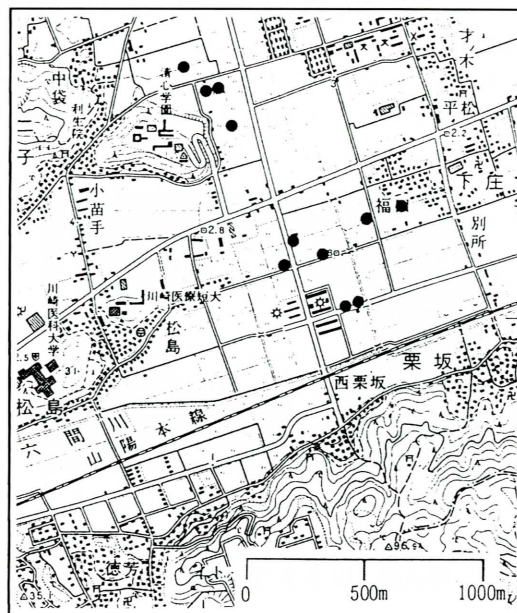


図. 倉敷市庄地区の群生確認場所(●)

生育、開花、結実、越冬、来春の発芽、野外での定着の有無など今後の動向に注目したい。

[清心女子高等学校]

参考文献

- 1) 大滝末男・石戸忠, 1980. ボタンウキクサ. 146-147. 日本水生植物図鑑. 北隆館, 東京.
- 2) 角野康郎, 1994. ボタンウキクサ(十下田路子氏撮影写真). 5. 日本水草図鑑. 文一総合出版, 東京.
- 3) 大久保一治, 1989. ボタンウキクサ. 245. 私の採集した岡山県自生植物目録付帰化植物・栽培植物. 岡山花の会, 赤磐郡瀬戸町.

^{*}AKIYAMA, Shigeharu: Water Lettuce Discovered in Streams in Kurashiki City, Okayama Prefecture